



④んな楽しく ⑤んでもチャレンジ ⑥んまる笑顔の

みなんまの子

南有馬小学校だより No.2

令和8年4月14日(火)

南島原市立南有馬小学校

校長 大草 修三



みなんまの子に新しい仲間!

～令和8年度入学式～



4月10日(金)、令和8年度の入学式が行われ、南有馬小学校に24名の新入生が入学しました。これで全児童122名がそろいました。

担任の先生を先頭に、そして、先生が後ろから見守る中、少し緊張した面持ちで体育館に入ってきた新入生でしたが、新入生紹介では、元気よく返事をし、2年生から6年生のお兄さん、お姉さんの方を向いて「初顔合わせ」ができました。入学式では、次のような話を新入生にしました。

24名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今日から南有馬小学校の子どもになるみなさんに、校長先生から、三つのお願いがあります。

一つ目です。「やさしい子ども」になってください。「やさしい子ども」は、お友達が困っていたり、泣いていたりしているときに「どうしたの?」「大丈夫?」と言える子です。

二つ目です。「あかるい子ども」になってください。「あかるい子ども」は「おはようございます」「こんにちは」と笑顔で挨拶ができる子どもです。

最後、三つ目です。「たくましい子ども」になってください。「たくましい子ども」は、毎日元気に学校に来る子どもです。

明日から、勉強したり、運動したり、友達と仲よく遊んだりして、「やさしく」「あかるく」

(右上へ ㊦)

「たくましい」南有馬小学校の子どもになりましょう。

南有馬小学校には、「やさしく」「あかるく」「たくましい」子どもになるための魔法の合言葉があります。どんな魔法の合言葉か、今からお兄さん、お姉さん、先生方が教えてください。2年生から6年生の皆さん、先生方、お願いします。

みなんまの「み」…みんな楽しく

みなんまの「なん」…なんでもチャレンジ

みなんまの「ま」…まんまる笑顔の

みなんまの子

「やさしく」「あかるく」「たくましい」みなんまの子どもになれそうな気がしてきましたね。新生生のみなさんも一緒に言ってみましょう。

(新入生も一緒に大きな声で言いました。)

これで、みなさんも、立派なみなんまの子の仲間入りです。

心から、入学おめでとう。



最後になりましたが、ご臨席いただきました保護者の皆様、地域の皆様、ご多用な中、また、お足元の悪い中、お越しいただき、本当にありがとうございました。

今後とも、122名のみなんまの子どもの健やかな成長をお見守りいただきますようお願いいたします。



あいさつ上手な みんなまの子



南有馬小学校に赴任して約2週間。みんなまの子どもたちのすばらしさを実感しています。

特に、あいさつです。朝から校門に立っていると、立ち止まって「大草校長先生、おはようございます」とあいさつをしてくれます。「ワンストップあいさつ」「名前を付けてあいさつ」がよくできているなあと感じます。

このような素晴らしい子どもの姿は、これまでの学校と家庭、地域の連携した取組の成果です。ありがたいことです。

あいさつは漢字で「挨拶」と書きます。挨拶の「挨」には「心を開く」という意味があります。「拶」には「相手に迫る」という意味があります。つまり、挨拶には「心を開いて、相手に近づく」という意味が込められているのです。ですから、「ありがとう」「ごめんなさい」といった言葉もあいさつの一つなのです。

気持ちのよい、さわやかなあいさつ、相手を思いやるあいさつは、コミュニケーションの第一歩です。今後も、ますますあいさつ上手なみんなまの子を育てていきたいと思います。ご家庭や地域でも、引き続きあいさつ上手なみんなまの子の育成にご協力いただきますようお願いいたします。

私も早く子どもたちの名前を覚えて、名前を付けて挨拶ができるようにがんばります。



ほっとタイム

着任式の歓迎の言葉で6年生のさんが、また、入学式の歓迎の言葉で、6年生の君が、南有馬小学校のいいところの一つとして「校庭のプラタナス」を紹介しました。子どもたちにとってもプラタナスが南有馬小学校のシンボルツリーになっていることをうれしく思います。

今回のこのコーナーでも、プラタナスに関することを紹介します。

プラタナスは、毎年4月から5月にかけて小さな花を咲かせます。学校のプラタナスは、すでに花の時期を過ぎ、小さな実を付けています。そのプラタナスの花言葉をご存じですか？実は、プラタナスの花言葉は「天才」「好奇心」なのです。古代ギリシャの哲学者プラトンが、プラタナスの木の下で議論を交わしたことに由来しているそうです。

「天才」というと、頭のいい人というイメージがあります。でも、私は「天から授かった才能、資質」、言い換えれば「その子のよさ」だと思います。ですから、誰もが「天才」なのです。そして、それは人と比べるものではなく、優劣をつけるものでもありません。

子どもたちはそれぞれに、その子の「天才」をもっています。学校教育、家庭教育、社会教育を問わず。教育とは、その子の「天才」を見つけ、自覚させ、よりよく伸ばすことなのです。南有馬小学校は、大きなプラタナスの木が見守る中で、一人ひとりの「天才」を大切に育み慈しむ、そんな学校でありたいと思います。

